第２回交通経営マネジメント研究会議事録

（1） **日時** 2006 年 11 月 10 日（金） 18:00～20:00

（2） **場所** 京都大学 法経総合棟３１１演習室

（3） **配布資料**

２－１：第二回交通経営マネジメント研究会レジュメ

２－２：第一回交通経営マネジメント研究会議事録

２－３：交通経営マネジメント研究会趣旨

２－４：交通経営マネジメント研究会名簿

２－５：西田氏・佐々木氏・石村氏（㈱社会システム総合研究所）提供資料

２－６：安野氏（㈱ニュージェック）提供資料

（4） **議題**

◎話題提供・話題提供者

第一部 交通コミュニティーカードのねらいと事例

１．交通コミュニティーカードによる地域活性化（西田純二氏）

２．IC カードの多機能性と公的活用（佐々木隆氏）

３．ETC の現状とスルーウェイカードの紹介（石村勝伸氏）

第二部 公共交通経営はレッセフェールに任せて良いか（西田純二氏）

１．減少を続けるわが国の鉄道旅客

２．日本型私鉄経営モデルの限界

３．「準公営」により再生を図るソウルのバス再編

◎討議内容

「今後の研究会の進め方について」

（5） **出席者**（順不同，敬称略）

	名 前	所 属
1	小林潔司	京都大学経営管理大学院／京都大学大学院工学研究科
2	江尻良	京都大学経営管理大学院／東海旅客鉄道株式会社
3	文世一	京都大学大学院経済学研究科
4	正司健一	神戸大学大学院経営学研究科
5	宇野伸宏	京都大学経営管理大学院 ／京都大学大学院工学研究科
6	松島格也	京都大学大学院工学研究科
7	西田純二	（株）社会システム総合研究所
8	佐々木隆	（株）社会システム総合研究所
9	石村勝伸	（株）社会システム総合研究所
10	安野貴人	（株）ニュージェック
11	伊藤慎兵	（株）ニュージェック
12	宗和泰司	関西電力株式会社 グループ経営推進本部

13	吉田明弘	三井住友カード株式会社　大阪営業統括部
14	小川貴裕	日建設計シビル／京都大学経営管理大学院
15	成	神戸大学大学院経営学研究科
16	岡田貢一	京都大学経営管理大学院
17	梅川祐一郎	京都大学経営管理大学院
18	鶴田岳志	京都大学経営管理大学院
19	野寺寿雄	京都大学経営管理大学院
20	満徳勇	京都大学経営管理大学院
21	南本哲穂	京都大学経営管理大学院
22	小泉慶倫	京都大学経営管理大学院
23	鄭蝦榮	京都大学工学部都市社会工学専攻
24	菱田憲輔	京都大学工学部都市社会工学専攻

（６）話題提供：西田　純二　氏（㈱社会システム総合研究所）
佐々木　隆　氏（㈱社会システム総合研究所）
石村　勝伸　氏（㈱社会システム総合研究所）
「交通コミュニティーカードのねらいと事例」

主な質疑応答は以下のとおり（以下敬称略）

――氏：スルーウェイカードの会員は、自分の利用履歴のデータ・情報を使用されることを許容しているのか。

――氏：利用履歴データの使用の同意はあるが、契約の詳細を見ずに同意されている方が多い。ただし、フォントの大きい資料を用意したり、ぎりぎりまで契約が無効にできる権利を付与したりと法律が認める範囲内でおさめている。

――氏：パーキング利用状況などの分析に必要なデータは得られるのか。

――氏：得られる。それ以上に利用者に対して直接アプローチできるなどの利点がある。

――氏：利用状況について、一般車用の料金所を通る時点でその車は ETC を利用していないことがわかる。クレジットカード恐怖症や領収書の問題などの利用率向上に対する問題が残っている。利用率上昇に向けて、これから最も難しい段階に入っていく。100%になるまでの最後の20～30％を利用側に持ってくるのが難しい。

――氏：車載機無料はこちら側にとって損になるのではないか。

――氏：ETC 車載機製造企業に対して車載機のコンペ行い、年に数回ある国からの支援金をうまく活用することなどで無料提供ができる状況になった。そのため、損ではない。また、Pitapa と同様に、合理化効果や料金所が減ることでネットワークの外部性が働いてくるのである程度利用率を上げないと意味がない。そこで、このようなアプローチを取る必要性があった。平日の業務などによる多頻度利用者はほぼ車載機をつけている。土日特定利用者はこういったやり方でない限り、車載機をつけないという認識があった。

――氏：逆に ETC の利用によって利用料金がまとまって目に見えるようになることで、利用の抑制につながるという一面も持っているのではないか。

――氏：家計の行動が完全に合理的でないことを教えてしまう結果になるということもあるだろう。

――氏：グーパスについて、まず利用に関する情報はどこにあるのか。

――氏：すべての情報は受託会社である三井住友カードが持っている。データはクリアリングハウスに蓄積されており、鉄道会社は手数料を支払うことでその情報が利用できるという仕組みになっている。

――氏：グーパスには、それを使って改札を出た時に利用者の携帯電話に駅近の情報を送るなどの決済以外のサービス機能もついている。最近では決済カードで出欠確認ができるなど、親子間の情報伝達などのツールとしての利用も増加している。ETC、Pitapa と比較してこういった機能や顧客にダイレクトにアプローチできる点などがポイントなっている。

――氏：一般企業から情報を提供してほしいと依頼があった場合はどうしているのか。

――氏：三井住友カードはスルッとカンサイのパートナーという立場であると考えているので、情報はスルッとカンサイのものであると考えている。その情報を他社との関係の中で動かすということはまったく考えていない。

――氏：グローバルな領域で利用されるマイレージなどのポイントシステムに対して、限られたコミュニティーの中だけに対してこういったものを作るメリットは何か。地域でやることの意義は何か。

――氏：店と利用者の両方のメリットについて考える必要がある。

（７）討議内容・決定事項

「今後の研究会の進め方」

◎ 次回の研究会開催日時：2006 年 12 月 22 日（金）18：00～20：00

◎ 話題提供：宇野　伸宏　氏

◎ 話題内容：未定

◎ 他決定事項：土木計画学会春大会について

開催時期：2007 年６月９日（土）・10 日（日）

開催場所：九州大学　箱崎キャンパス